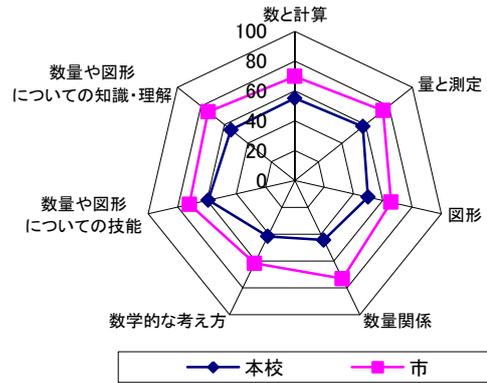


宇都宮市立上河内西小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	55.1	69.8
	量と測定	58.0	75.2
	図形	50.0	65.7
	数量関係	44.3	73.1
観点別	数学的な考え方	41.6	61.7
	数量や図形□についての技能	59.1	72.0
	数量や図形□についての知識・理解	54.4	73.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	数と計算のうち四則計算は繰り下がりのある引き算と余りのある割り算以外は比較的よくできていた。しかし立式が掛け算や割り算になる文章題や大きい数・分数の問題はどれも市の平均を下回った。特に低かったのは、文章問題を解くための除法の立式をする問題である。文章の意味がつかめないための誤りであると考えられる。	計算は、算数における基礎中の基礎であるので、日ごろから多くの時間学校や家庭で取り組ませている。今後もドリル等を繰り返し取り組ませていく。また意図的に苦手としている繰り下がりのある引き算に多く取り組ませたい。また、文章の意味をとらえられないことへの対策としては、多くの問題に慣れさせる必要がある。多くの文章題を解くことにより問題のパターン化に気付かせ、このような時は割り算などというように気づかせるようにしていく。
量と測定	量と測定の問題は、8題出題され、どれも市の平均を下回ったが、どの問題の正答率も50%を超え、極端に下回ったものはなかった。中でも一番大きく市の平均を下回ったのは、道のりの意味を理解し、地図から道のりの差を求める問題である。これは、問題の意味を捉えている児童がほとんどであったが、苦手な差を求める問題であったため多くの児童がつまづいてしまった。	日常の学習を見ていると、道のりの問題よりも時刻と時間の問題を苦手としている児童の方が多い。やはり問題を解くうえで、以前の時刻を尋ねるような引き算が登場するとつまづきが増えているので、そのような問題に多く取り組ませて慣れさせるとともに、その問題の確認をしっかりと行っていく。
図形	図形の問題は、「はこの形」、直方体の長さの等しい辺の数を問う問題と直方体から写し取ることができる面についての問題の2題が出題されたが、どちらも市の平均を下回った。日常の学習では、図形をかくことはやや苦手としている児童がいるが、辺や面の数を問う問題などは、それほどつまづいてはいない。今回下回ったのは、問題文の意味を捉えられなかったことが主な原因であると考えられる。	図形に関しては、コンパスの使い方が不慣れなため、円や二等辺三角形、正三角形等をかき方は身に付いているが正確にかけていないという課題がある。やはりこれも十分使用させ、慣れさせていく。また、図形の角や辺などの名称をしっかりと確認していく。
数量関係	□を使った式の問題が2題出題された。一つは□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ問題ともう一つは□を使った文章問題を表した図を問う問題であったが、どちらも正答率が市の平均を下回った。また、棒グラフの問題も2題出題された。棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示す問題は全国平均並であったが、一目盛り2人のグラフの人数を問う問題は大きく下回った。	数量関係の問題は、問題文の意味や式の意味などを正確にとらえていないと解けないので、立式した時のそれぞれの数は何を意味しているのかを絶えず確認していく。また線分図やグラフが表す数量の意味も、言葉で言わせるなどして確認していく。